

第6学年 道徳学習指導案

日 時：平成26年10月24日（金）第5校時

場 所：6年教室（3階）

授業者：小里ふみ子

児童数：男19名、女15名

1 主題構成表

主題名 続けること

資料名 「わたしたちの小さな駅」(文溪堂)

■内容項目 4-(4)

勤労・社会奉仕

働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。

■内容項目から見た子どもの実態(意識)

- ・全校のために、掃除や当番活動に取り組もうとしている。
- ・反面、困難を伴う仕事など、仕事の内容によっては、不満を漏らしたり、人任せにしたりしてやり切ることができない子どもがいる。
- ・地域や公共のために働こうという気持ちは十分育っていない。

■要因

- ・最高学年として、集団のために役立つ仕事にやりがいや喜びを感じている。が、面倒なことや見返りがなくとも、自分なりにやり切ったよかったという満足感を得た経験は乏しい。
- ・家庭や地域で、手伝いをする経験が乏しい。

■価値の分析

- ・働くことは、人間が社会生活を営む上での義務である。しかし、義務感だけで仕事をしていると、困難に遭った時、それを乗り越えていくことは難しい。
- ・働くこと、奉仕することを通して、集団や社会と積極的に関わり、集団を支える誇りや喜びを得ることができる。すなわち、働くことによって、自己の存在意義を自覚したり、生きがいを見出したりすることができるのである。やりがいをもって取り組めるものがあれば、その人生は豊かなものになる。
- ・最高学年となったこの時期に、働くことによって、みんなの役に立っているという喜びや誇りを実感し、働くことの意義を考えることは、進んで社会の役に立とうとする心を育てていくことに繋がる。学校集団や地域社会の一員として、進んで役に立とうとする態度を育てていきたい。

■資料の分析

- ・本資料は、八戸線の金浜駅という無人駅で、地域のために掃除をする主人公と、主人公に協力する家族が描かれた作品である。児童作文を資料化した実話であるため、共感しやすい内容である。
- ・「わたし」は、近所の古川さんの手伝いをきっかけに、駅の掃除を始める。転居した古川さんの後を引き継いで、一人で掃除を続ける。幼い頃から手伝っていたので、自然に引き継ごうという気持ちになったことに気付かせたい。家族の協力を得て、冬の厳しい朝でも作業を続ける。何度もやめてしまおうと思った「わたし」の気持ちから、誰の心にもある弱さに共感させたい。
- ・葛藤を乗り越え、乗客などに感謝され、古川さんやみんなの役に立つ喜びを知って掃除を続ける「わたし」の気持ちに共感させたい。

■ねらい

働くことによって、社会の役に立つことや、それが自分の喜びになることに気づき、公共のために進んで働こうとする態度を養う。

■展開の構想

- ・今までに取り組んだことのあるボランティア活動についてのアンケートを提示し、価値への方向付けをする。
- ・何度も掃除をやめてしまおうと思った時の「わたし」の気持ちに共感させる。
- ・葛藤を乗り越え、なぜ掃除を続けられたのか話し合い、駅がきれいになることで、古川さんも乗客も喜んでくれてうれしいという気持ちに共感させる。「感謝の言葉が聞かれなかったらやめていたのか。」と問い、自分が掃除することで、みんなの役に立っているという喜びがやりがいに繋がっていることに気付かせる。
- ・働くことに喜びを感じた経験について振り返り、社会のために働こうとする実践への意欲化を図る。

■他の教育活動との関連

- ・日直や当番活動などの意義を考え、みんなの生活をよりよくするために大切な仕事であることを意識してやり抜くことができるよう指導する。
- ・全校のリーダーとして、委員会活動や縦割り班活動、分団登下校などで、仕事の意義や目的を考えさせ、進んで活動することの大切さを指導する。
- ・特別活動や地域での活動で、目的を考えたり、参加の心構えについて意識したりする場をもつ。
- ・よいこと見付けカードにより、みんなのために働いている姿を認め、広める。

段階	過程のねらい	主な学習活動	指導・援助
つかむ	○本時のねらいとする価値が分かる。	1 今までに取り組んだことのあるボランティア活動について、学級のアンケートを提示する。 ・夏休みに、地域でごみ拾いをした。 ・老人ホームを訪問した。	※大型テレビで、アンケートを提示する。 ・資料への関心を持たせると共に、価値への方向付けをする。
ふかめる	○あらすじを知り、感想をもつことができる。 ○古川さんの後を引き継いだ主人公の気持ちに共感することができる。 ○何度もやめてしまおうと思った主人公の心の弱さに共感することができる。 ○葛藤を乗り越えて掃除を続けた主人公の考え方に気付くことができる。	2 資料の範読を聞き、主人公について感想を発表する。 ・毎日、駅の掃除をしているから立派だと思う。 ・何度もやめてしまおうと思った気持ちは、自分もよく分かる。 3 主人公の気持ちを考える。 ○古川さんが引越して、「わたし」は、どんな気持ちで駅の掃除を引き継いだのでしょうか。 ・誰も掃除をしなかったら、汚れた駅になってしまう。 ・古川さんのためにも引き継ごう。 ○やめてしまおうと思った時の「わたし」はどんな気持ちだったのでしょうか。 ・朝早く起きるのが辛い。 ・疲れるから、もう嫌だ。 ・雪が降ると大変、体中が痛くなる。 ・古川さんから引き継いだのだから、やっぱり掃除に行った方がいいな。 ・自分が掃除をしないと、困る人がいるかもしれない。 ◎なぜ、「わたし」はやめてしまおうという気持ち乗り越えて、掃除を続けたのでしょうか。 ・みんなから「ありがとう。」と言われて嬉しい。 ・古川さんが知ったら、喜んでくれる。 ・駅も心もきれいになる。 ・掃除をすることで、みんなの役に立っていることが嬉しい。 ・自分の努力で、お客さんの怪我を防ぐことができたり、気持ちよく使えたりすることが嬉しい。 ・やりがいを感じる。 4 自分の生活を振り返る。 ○今までにみんなのために働いてよかったなあと思ったことがありませんか。 ・公園の掃除をした時、きれいになってスッキリしたので、やってよかったと思った。	※資料に出てくる駅（青森県八戸市金浜駅）や、この地域の雪深い駅の写真を提示する。 ・児童が書いた作文であり、実話であることを押さえる。 ・幼い頃から古川さんの様子を見たり手伝ったりしていたことから、自然に引き継ごうという気持ちになっていたことに気付かせる。 ・提示資料から、雪深い地域のため、雪を片付ける作業は大変だが、重要な仕事であることを押さえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「感謝の言葉が聞かれなかったら、やめていたのか。」「みんなのために役立つことが、なぜ喜びなのか。」と問い、みんなの役に立つことは、働くことへのやりがいや、自分の仕事に対する誇りをもつことに繋がることに気付くことができるようにする。</div>
おとめる	○社会のために進んで働こうとする意欲をもつことができる。	5 社会のために働くということについて自分を振り返り、今後どうしていきたいか書く。 6 教師の説話を聞く。 ・社会のために力を尽くしている人の話を紹介する。地域や社会のためにできることを考える。	・「わたしたちの道徳」154ページで、具体的な社会奉仕の場を知らせ、実践への意欲を高める。